葦毛通信（いもう）

イワタカンアオイ

２０２１年３月８日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町３丁目１
TEL：0532-56-6060
No. 107

1、2020 年度作業報告ー4

葦毛湿原では２月 14～15 日にかけて久しぶりにまとまった雨が降りました。昨年の 11 月頃からまとまった雨は降っておらず、一の沢から三の沢は水量が減りほとんど干上がってしまいました。葦毛湿原では最も水量が多い三の沢の北側にある沢は、これまで名前がついていませんでした。今回この沢を**四の沢**と名付けました。

四の沢は葦毛湿原の指定地内では、南東隅にあるＬ地点を通り、北西隅にあるＪ地点に向かって斜めに流れており、大部分は水田の造成時にＱ地点で二股に分かれるように構築された人工の水路です。二股の分岐点より上流部は自然の沢で山の中腹へと続いていきます。この四の沢は葦毛湿原に流れ込む沢としては最も水量が多く、渇水になっても枯れたことはありません。Ｑ・Ｒ地点はこの四の沢の流域になります。

Ｑ地点抜根後（2021 年 2 月 7 日）

Ｑ地点水路復元後（2021 年 2 月 15 日）

１）Ｑ地点

右上写真は抜根後のＱ地点北半部で、まだ水が流れておらず礫が散乱している状態です。右下写真は水路を復元してから雨が降った直後の状態です。全体が緩やかな斜面になっているのでわかりにくいですが、中央の太い木と右

側のロープとの間は木道の下を通った水が右上から左下に向かって流れています。奥側は小さな水溜りがいくつもできている状態です。ここは自然地形のままで水田ではありません。旧水田は画面の左側から始まり下流に続いていきます。

Ｑ地点水路復元後（2021 年 2 月 15 日）

Ｑ地点水路復元後（2021 年 2 月 15 日）

上左写真は前頁の写真より下流の状況です。木道のすぐ脇を水が広がって流れています。上右写真はＱ地点の東側付近で緩やかな斜面に小さな水溜りがあります。

右写真はＱ地点の北端部分で、画面手前がＲ地点、その上がＱ地点の旧水田で雨の後で水が流れ込んでいるところです。現在は、雨が降らず沢の水量が減って池状にならず水が抜けてしまっています。今後雨が増えれば良好な池と湿地になると予想しています。

Ｑ・Ｒ地点水路復元後（2021 年 2 月 15 日）

２）Ｑ・Ｌ地点（木道下）

Ｑ・Ｌ地点の木道は、度重なる大雨で埋まって水が流れなくなっていました。下写真は木道が埋まっている状態です。木道の脚が全く見えなくなり、板面まで埋まっていました。バックホーで持ち上げてその下の土やネザサの根の層を除去しました。バックホーの後ろ

埋まった木道（2021 年 2 月 3 日）

木道下の状況（2021 年 2 月 3 日）

には外した木道が重ねてあります。前頁右側の写真は木道を外したところで、脚が埋まっていた穴です。

右上写真は抜根して木道の下の土を除去しましたが、まだ水路を復元していない状態です。左側に水が見えますが、この先に流れなくなっていました。

右下写真は水路を復元し、旧水田に水が流れ込むようにした状態です。水は木道の下を通って右側の旧水田に向かって画面の左から右と手前から奥に向かって流れています。地形的には写真の中央あたりが最も高くなっており度重なる大雨で水路が埋まっていました。今後、水の流れ方を観察しながらできる限り広い範囲に水が行き渡るようにするつもりです。

抜根後水路復元前（2021 年 2 月 7 日）

水路復元後（2021 年 2 月 15 日）

３）O地点実験区

O地点は抜根後、トウカイコモウセンゴケが 2,500 個体以上発芽し、その後イヌノハナヒゲが優勢になったところです。現在イヌノハナヒゲは大きな群落になりトウカイコモウセンゴケは衰退しています。このまま遷移に任せれば、枯れたイヌノハナヒゲが堆積し続け土壌化して、やがてヌ

イヌノハナヒゲ除草前（2021 年 1 月 26 日）

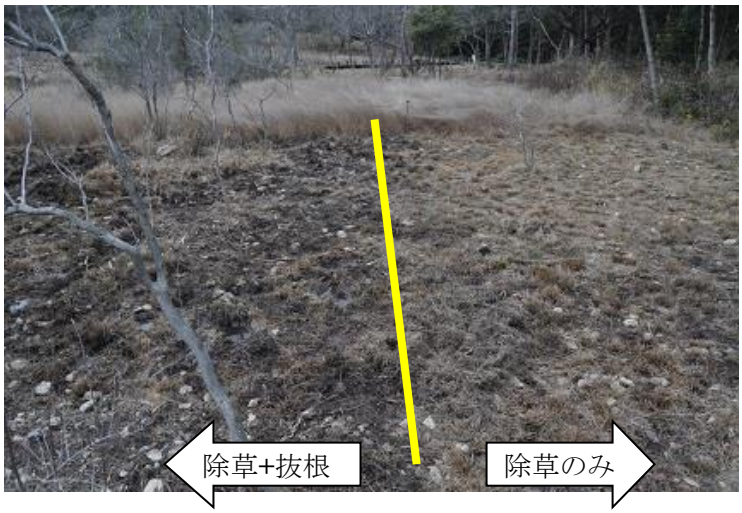
イヌノハナヒゲ除草後（2021 年 3 月 1 日）

マガヤ群落に移行すると予想しています。

葦毛湿原は遅くとも江戸時代からは秣場(まぐさば)として、牛馬の餌にするための草刈り場として維持されてきました。つまり、定期的にかなり大量の植物を刈り取っていた環境であったと考えられます。里山として管理された状態が湿原を良好な状態で維持して生物多様性に正の影響を与えていたと考えられます。

今回はイヌノハナヒゲ群落の一部を刈り取って変化を観察する実験区を設定しました。実験区は観察しやすい木道沿いで、木道の奥側は比較のために刈り取りを行わなかったところ、手前の刈り取ったところも、刈り取ったままのところ、刈り取ってから根も除去したところという条件の異なった３か所（右上写真）を観察できるようにしました。

右下写真は抜根したイヌノハナヒゲの根をバケツに入れた水で洗って土を落とし、洗った水を撒いて埋土種子をできる限り現地に残す作業を行っているところです。



O地点除草実験区（2021 年 3 月 1 日）

O地点除草実験作業（2021 年 2 月 23 日）

刈り取ったところも抜根したところも、トウカイコモウセンゴケが発芽してくると予想していますが、発芽の密度が異なるのか、あるいは発芽してくるその他の植物に違いがあるのかを観察する予定です。草刈りという作業が湿地の維持に関してどのような影響があるのかを確認し、今後湿地の維持に役立てるためにどのように行っていくべきかを確認するための実験です。

日本自然保護大賞 2021 受賞記念シンポジウム

YouTube でオンライン配信

2021 年 3 月 13 日（土）14:00～17:00 に、日本自然保護大賞 2021 受賞記念シンポジウムが YouTube でオンライン配信されます。**葦毛湿原大規模植生回復作業**も活動を発表します。ぜひご覧ください。

https://youtu.be/FRyD_SxrOus

プログラム

14:00　開会挨拶・総評
14:10　受賞者による活動発表(大賞３件)
15:30　休憩
15:35　受賞者による活動発表(特別賞３件)
16:50　閉会挨拶

＊詳細は「日本自然保護大賞」ウェブページをご確認ください。

https://www.nacsj.or.jp/award/